

○誰にとってもわかりやすい授業づくり

～職員研修会～

8月28日(水)、県立阪神昆陽高等学校から山本誠先生をお招きして、職員研修会を行いました。テーマは、「誰にとってもわかりやすい授業づくりについて」です。山本先生は、定時制高校での勤務の経験から、授業への気づきや、生徒の視点から見た授業、指導内容、指導方法の考え方、阪神昆陽での授業の実際などをお話いただきました。わかりやすい授業づくりのために、目標や方法を教員どうしで一緒に考える、生徒を知る(その子の特性を知る)ことなどできることがあると思いました。



私が初任のとき、ある先生から「生徒が動かないのは、生徒が悪いのではない、先生の授業が悪い」と言われたことがありました。(なんとその言葉が今回いただいた資料の中にありました。)思うように動かない生徒を前に、イライラしていた自分を、そして授業を見つめなおす機会になったことを思い出しました。

先生方には、さらに研修を進めていただいて、本校の教育活動にも活かしていただきたいと思います。また、今回の研修には、但馬教育事務所をはじめ近隣の小中高等学校、特別支援学校からも参加していただきました。ありがとうございました。

○新しい地域のあり方は？ ～地創系夏季調査実習(射添地区)まとめ～

8月28日(水)の午後、化学教室に地域創造系1～3年が集まり、休業中に行った集落調査の報告を行いました。この調査をもとに集落ガイドブック「むらの風景 vol.3」が作成されます。新しい地域、むらの在り方をどう考えるか、戻ってきたいと思うようになるか、ガイドブックの出来上がりが楽しみです。(今回の実習のまとめには、過去にガイドブックを作成した大学生にも指導していただきました。写真右)



「むらの風景 vol.2」には、集落調査の行い方がまとめてありましたが、1年生にとっては初めての調査で、聞き取りはいろいろと難しかったようです。今後の調査に向けても、今回の反省をもとに、どのように質問すれば、地域の方が答えやすいのか、求めるものになるのか、しっかり考えていきましょう。(写真左は入江地区調査の様子)